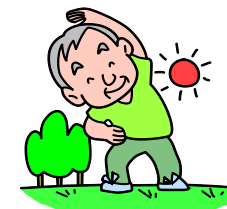




認知症になっても住みよい地域づくり



- 新湊西地域は射水市の中でも**高齢化率が高く**、また**一人暮らしの方も**多い地域である。
- 認知症を有する者ができる限り住み慣れた地域で暮らす為には、**地域のサポート**がかかせない。
- **地域の機能確認**をおこないながら、認知症の**理解と対応**についてはたらきかけた。

①庄西地区の各組織へのはたらきかけ

- 平成 21 年～ 出前教室（いきいきサロン・地区のボランティア：年に数回：地域住民の介護予防の意識づけ）
- 平成 22 年・ 認知症サポーター養成講座（地区社協）
- 平成 24 年・ 認知症サポーター養成講座（婦人会）

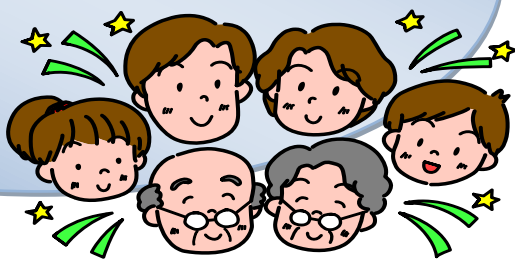


②徘徊高齢者声かけ模擬訓練実施



参加者

自治会・地区社協・民生委員・老人クラブ
 婦人会・ケアネット・一人暮らし推進員
 地域の商店の方



③地域における支援体制強化

今後の課題

- 支える側も高齢化してきている
- **若い世代**にも働きかけが必要

地域包括ケアシステム構築に向けた取組事例（様式）

| | | |
|--------------------------------------|---|---------------------|
| ①□区町村名 | 射水市 | |
| ②人口（※1） | 95,112人 | （ 17,447人） |
| ③高齢化率（※1） （65歳以上、75歳以上それぞれについて記載） | 65歳以上 25.71% 75歳以上 12.34% | （ 31.74% 16.21%） |
| ① 取組の概要 | <p>少子高齢化が進む中、個別の生活課題を地域で支えあう地域生活支援ネットワークの構築や推進が求められている。認知症についての正しい知識を持ち、認知症になっても安心して暮らせる町づくりを目指し、徘徊高齢者声掛け模擬訓練を行う。</p> | |
| ⑤取組の特徴 | <p>認知症高齢者の対応方法と徘徊高齢者と思われる人を発見した際の声掛けの実際を体験する事で、声掛けに対する負担の軽減や実際の徘徊高齢者の安全な保護が行える。又、声掛けが浸透する事で徘徊による行方不明者の発生を予防できる地域づくりを目指す。</p> | |
| ⑥開始年度 | 平成21年度より出前教室にて介護予防啓発活動を実施 | |
| ⑦取組のこれまでの経緯 | <p>平成21年度～ 介護予防出前教室・庄西地区にて（年1～2回開催） 平成22年度・庄西地区社協を対象に認知症サポーター養成講座実施 平成24年度・庄西地区婦人会を対象に認知症サポーター養成講座実施 庄西地区を対象に徘徊高齢者声掛け模擬訓練実施</p> | |
| ⑧主な利用者と人数 | 自治会・地区社協・民生委員・老人クラブ・ケアネットメンバー 一人暮らし推進員・婦人会・地域の商店の方 参加者23名 | |
| ⑨取組の実施主体及び関連する団体・組織 | 射水市長寿介護課 | |
| ⑩市区町村の関与（支援等）（※2） | 委託料 20,000円 | |
| ⑪国・都道府県の関与（支援等）（※3） | | |
| ⑫取組の課題 | 若い世代にも認知症に対する意識付けや働き掛けが必要である。支える側も高齢化してきている。 | |
| ⑬今後の取組予定 | 当包括が担当する圏域の各地区を対象に今後も年1回、徘徊高齢者声掛け訓練を実施する。又、認知症サポーター養成講座も若い世代も含めて各種団体に開催し、認知症の理解を通して地域のつながりを深め、支援体制を構築していく。 | |
| ⑭その他 | | |
| ⑮担当部署及び連絡先 | 新湊西地域包括支援センター 0766-83-7171 | |

※1 一部地域に限定した実施の場合は、当該地域の人口・高齢化率を（ ）内に記載してください。

※2 市町村から財政的支援が行われている場合には予算額等を含めて記載ください。

※3 国や都道府県から財政的支援を受けている場合は、補助金や交付金等の名称、額等を含めて記載ください。

平成25年2月1日

庄西地区社会福祉協議会 各位

新湊西地域包括支援センター

徘徊高齢者声かけ模擬訓練の実施について

余寒の候、ますますご清栄のことお喜び申し上げます。

現在、少子高齢化が進む中、個別の生活課題を地域で支えあう地域生活支援ネットワークの構築や推進が求められています。地域包括支援センターでは認知症についての正しい知識を持ち、認知症になっても安心して暮らせるまちづくりをめざし、標記徘徊高齢者声かけ模擬訓練を開催することとなりました。

つきましては、ご多忙とは存じますがご参加をお願い致します。

記

1 目的

認知症高齢者の対応方法と徘徊高齢者と思われる人を発見した際の声かけの実際を体験することで、声かけに対する負担感の軽減や実際の徘徊高齢者の安全な保護が行え、また、声かけが浸透することで徘徊による行方不明者の発生を予防できる地域づくりをめざす。

2 日時 平成25年3月6日(水)

13:30～16:00

3 会場 庄西コミュニティーセンター

4 内容

| | |
|-------------|----------------------|
| 13:30～13:35 | 挨拶 |
| 13:35～13:55 | 介護予防事業の概要 |
| 13:55～14:25 | 声かけ講習会(認知症サポーター養成講座) |
| 14:30～15:15 | 模擬訓練 |
| 15:15～16:00 | 結果報告、意見交換 |

以上

徘徊高齢者声かけ模擬訓練 次第

日時 平成25年3月6日（水）
午後1時半～4時
会場 庄西コミュニティーセンター

- 1 挨拶
- 2 介護予防事業の概要
- 3 声かけ講習会（認知症サポーター養成講座）
- 4 模擬訓練
- 5 結果報告、意見交換
- 6 閉会の挨拶

徘徊高齢者と思われる人を発見し、保護するという想定です。あなたが、この人は何かおかしいと感じた人に声をかけるという設定です。実際に徘徊している人を検索するものではありません。

（実施方法）

- ① 参加者は、一度に3人で研修室から出て、徘徊者と思われる人に「声かけのポイント」に注意しながら、保護するつもりで声かけを行ってください。
- ② 参加者は、研修室を約10分おきに3人が順次出発をします。和室を出て研修室及び1階に行き、徘徊者と思われる人に声をかけてください。
- ③ 参加者は声かけ訓練を3回（人）体験し、研修室に戻ってください。
- ④ 声かけをして、保護をしようとしている途中で、徘徊者役のスタッフが「声かけお礼」のカードを参加者に渡します。
- ⑤ 参加者はカードを受け取った時点で、その声かけは終了となりますので、徘徊者役のスタッフから離れてください。
- ⑥ 別の方が声をかけているようであれば、先の方の声かけが終了するまで離れてお待ちください。

（注意事項）

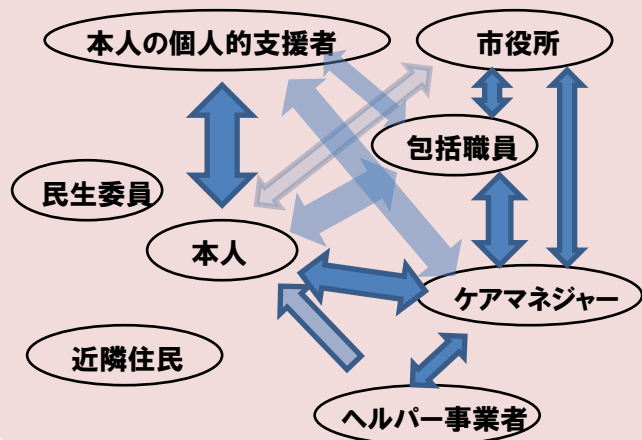
- ① 「声かけ模擬訓練参加者」の目印は、本日配布のオレンジリングです。徘徊者役に「声かけ模擬訓練参加者」とわかるようにオレンジリングを手に巻いてください。
- ② 徘徊者役のスタッフは、真剣に役に徹していますので、参加者も徘徊者への声かけのみに徹してください。
- ③ 万一、事故や混乱が生じた場合には、近くの職員にお知らせください。

地域ケア会議実践報告

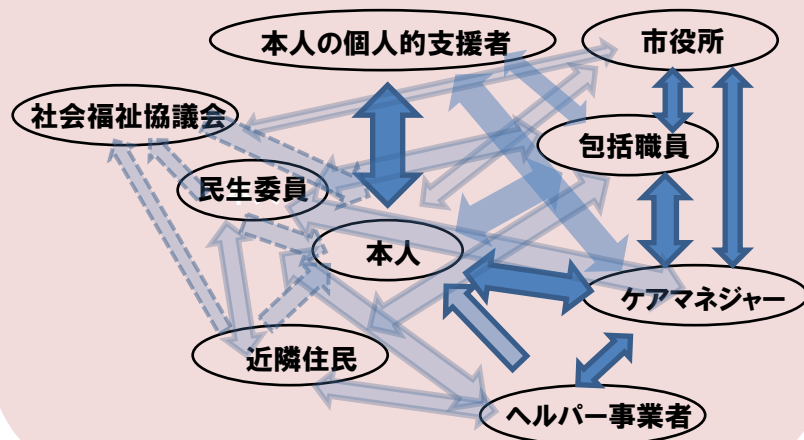
| | |
|----------|--|
| 会議のテーマ | 「近所との交流のない一人暮らしを支える関係作り」 |
| 地域の特徴 | 小杉・下地域の中でも小杉駅前の商店街の細い路地が多く、以前から住んでいる人が多い地域。家が隣接している一方、空き家・空き地もある。 |
| 個別課題 | 在宅酸素療法を受けている81歳の要介護状態の一人世帯高齢者。 妻が亡くなったことで本人の存在が地域の人に明らかになった。介護保険サービス、社会福祉制度等公的サービスは受けているが、それだけでは一人暮らしの継続は困難であり、地域からも心配との声が上がった。 |
| 会議のねらい | 独居でも在宅生活が継続できるように支援内容を検討する |
| 会議のメンバー | 担当区域民生委員、担当地区民生委員、町内会長、介護支援専門員、ヘルパーステーション責任者、包括支援センター職員 |
| 会議の開催方法 | 日時：平成25年2月9日(土) 9時～10時 場所：三ヶコミュニティセンター 内容： ①本人の身体、生活状況、生活に対する思いを共通認識を持つ ②地域住民の思いを聞く ③必要な支援の検討と具体的方法を定める |
| 会議の成果 | 地域の方は、本人の状況を理解でき今後は自宅に訪問したり関わりやすくなった。サービス事業所からも、顔を合わせることで連絡しやすくなり、射水市の福祉サービスや地域の見守りネットワークについて理解できたとの事。情報共有により、関係者全員が必要な支援について考え、具体的な対策を立てることができた。顔が見えたことで、お互いに頼り頼られる関係性ができた。 |
| 会議の結論 | ①ケアネットチーム立ち上げ、見守り体制を作る。月に2、3回は何らかの訪問が出来るように近所の人に声をかける。 ②いのちのバトンの利用をすすめる。 ③訪問介護継続利用する。(買い物、調理、掃除、受診や銀行への同行) ④緊急通報装置が利用できるように固定電話の設置を勧める。 |
| 課題 | 地域ケア個別会議の開催の必要性を感じていながらも、開催日を決めるまでに時間と手間がかかった。また、会議後は他の事例の相談や確認などの話もあり、地域の方と話し合う機会の重要性を感じた。 |
| 今後の展望・目標 | 顔の見える関係づくりやネットワークの構築によって、支援困難事例の発見や早期介入ができたり地域の課題が発見できると思われる。そのためには、日頃より地域に出向き、関係者と話をする機会や民生児童委員の会合、ケアネットの会合などに参加させてもらえるよう働きかけたい。 |

地域から孤立している要援護者への支援

地域ケア会議前のネットワーク



地域ケア会議後のネットワーク



会議の成果

- ・地域の人が必要支援者の存在に気がついた
- ・どのような心身の状態なのか分かった
- ・支援者とおしの顔が見え、お互いの支援している内容が分かった



- ・必要な支援や具体的な対策がわかり、役割分担もその場でできた
- ・支援者とおしの関係ができ、新たな支援者もできた

課題

- ・高齢者世帯、要援護者や障害者世帯など、地域の人や関係者など気になるケースはあるが、状況の把握がお互いに出来ていない。
- ・会議開催までに時間がかかり、状態が変化してしまう

今後の展望・目標

顔の見える関係づくりやネットワークの構築によって、支援困難事例の発見や早期介入ができたり、地域の課題発見ができるようになる。そのためには、日頃より地域に出向き、関係者とお話をする機会や民生児童委員の会合、ケアネットの会合等に参加させてもらえるよう働きかけたい。